

令和5年度

# 「学生による授業評価」の概要

令和6年4月

県立広島大学大学教育実践センター

## 【 前 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,565
- 回答率 35.0%

## 【 総 評 】

今年度の前期は、昨年度同様に原則対面で授業が実施された。学生アンケート調査はオンライン回答で実施された。今年度前期のアンケートの回答数は受講登録者数 4,469 に対して 1,565 であり、その回答率は 35.0%と低い。昨年度前期の回答率 33.1%と比べても同水準に留まった。今年度も対面実施の授業においてオンラインで回答を依頼する方式であったため、その場で回答しなかった学生は、その後も回答せず、回答率が上昇しない一因になっていると考えられる。今後、アンケートの実施方法を検討し、十分な回答率をいかに確保するかが重要な課題である。以下、アンケートの設問毎の詳細について考察する。

まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問 1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合が前年度とほぼ同水準の 97.1%であったことから、各科目において学生が真面目に取り組んだことが伺えた。一方、設問 2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間。」は、4 時間以上および 2 時間以上と回答した割合の合計が 52.8%であり、対面実施が再開された昨年度（47%）を僅かに上回った。また、授業時間外に全く学修をしていない割合は 4.9%で、昨年度から微増した（R4 年度：3.4%、R3 年度：3.2%）。次に、授業評価に関わる設問 3～9 については、設問 4「この授業では能動的学修機会がある。」の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は 82.8%であり、昨年度の 83%と同レベル、一昨年度の 65%に比べて大幅に上昇した。これは、対面実施によるコミュニケーションの効果によるものと考えられる。設問 8「この授業の内容に関してさらに学びたい。」の肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は 88.5%であり、対面授業による効果が伺われる。また、設問 9「この授業での学習活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。」では、93.7%が肯定的（強くそう思う・そう思うに回答）に回答しており、きめ細やかな学習指導が実施されていると考えられる。設問 10「総合的に判断して、この授業に満足している。」については、肯定的回答（強くそう思う・そう思う）の割合は 93.8%で、昨年度の 94%と同レベルであり、対面授業が再開されて以降、全体的な満足度は継続して高いといえる。

令和05年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 地域創生学部  
 ■科目名 地域創生学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 4,469  
 ■回答者数 1,565  
 ■回答率 35.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	765 48.9%	755 48.2%	42 2.7%	3 0.2%	3.46
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	256 16.4%	570 36.4%	662 42.3%	77 4.9%	2.64
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	672 42.9%	757 48.4%	114 7.3%	22 1.4%	3.33
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	630 40.3%	665 42.5%	228 14.6%	42 2.7%	3.20
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	582 37.2%	857 54.8%	106 6.8%	20 1.3%	3.28
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。	666 42.6%	805 51.4%	81 5.2%	13 0.8%	3.36
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプリ・ ファイルなど)は適切だ。	635 40.6%	823 52.6%	88 5.6%	19 1.2%	3.33
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	537 34.3%	848 54.2%	153 9.8%	27 1.7%	3.21
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	589 37.6%	878 56.1%	80 5.1%	18 1.2%	3.30
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	624 39.9%	843 53.9%	77 4.9%	21 1.3%	3.32

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.71	3.35	3.50	3.67	4.00	0.30
1.00	2.39	2.67	3.00	4.00	0.47
1.95	3.13	3.40	3.67	4.00	0.38
1.82	2.97	3.33	3.70	4.00	0.54
1.71	3.14	3.38	3.53	4.00	0.35
2.00	3.21	3.41	3.58	4.00	0.32
2.00	3.25	3.38	3.56	4.00	0.34
2.00	3.06	3.29	3.44	4.00	0.41
2.14	3.21	3.40	3.50	4.00	0.31
1.86	3.23	3.40	3.50	4.00	0.34

## 【 後 期 】

- 授業科目の概要 地域創生学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,393
- 回答率 24.7%

## 【 総 評 】

前期に引き続き、原則対面で授業が実施された。ウェブ回答による学生アンケート調査の回答率は24.7%であり、昨年度後期の回答率20.7%と同程度に低い回答率であった。回答率の低下の傾向は、前期についても同様であった。以下、アンケートの設問毎に詳細について考察する。まず、学生の自己評価に関わる項目として、設問1「わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。」は、肯定的回答の割合が前年度とほぼ同水準の98.3%であったことから、各科目において学生が真面目に取り組んだことが伺えた。設問2「わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修時間。」は、2時間以上が約53.8%であり、前年度と同程度であった。また、授業時間外に全く学修をしていない割合は昨年度と同レベルであった（今年度：7.6%、昨年度：6.1%）。設問4「この授業では能動的学修機会がある。」の「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合が今年度は79.4%であり、昨年度の約82%から僅かに低下した。これらより、今年度も昨年同様、授業時間外での学修時間は若干低下したものの、授業時間中は学生が積極的に授業に参加している様子が見えてきた。設問5「この授業の課題の内容・量は適切である。」の「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合は92.7%であり、設問6「この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。」の「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合は96.4%、また、設問7「この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプリ・ファイルなど)は適切だ。」の「強くそう思う」または「そう思う」と回答した割合は95.8%であり、学生のレベルに合わせた効果的な授業が展開されていることがうかがわれた。これらの点から、授業時間中における学生の受講姿勢、意欲的な参加、授業満足度は高いレベルで維持できているといえる。しかし、全学的に回答率が低い傾向にあることから、このアンケート結果が学生の全体像を反映したものになっているとは言い難い。今後も継続的に、十分な回答率を確保するための工夫が課題である。

■学部・学科 地域創生学部  
 ■科目名 地域創生学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 5,636  
 ■回答者数 1,393  
 ■回答率 24.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	726 52.1%	643 46.2%	24 1.7%	0 0.0%	3.50
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	227 16.3%	523 37.5%	537 38.5%	106 7.6%	2.63
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	657 47.2%	619 44.4%	94 6.7%	23 1.7%	3.37
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	564 40.5%	542 38.9%	204 14.6%	83 6.0%	3.14
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	581 41.7%	710 51.0%	88 6.3%	14 1.0%	3.33
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	611 43.9%	732 52.5%	46 3.3%	4 0.3%	3.40
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	631 45.3%	703 50.5%	52 3.7%	7 0.5%	3.41
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	528 37.9%	762 54.7%	92 6.6%	11 0.8%	3.30
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	580 41.6%	740 53.1%	65 4.7%	8 0.6%	3.36
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	607 43.6%	716 51.4%	59 4.2%	11 0.8%	3.38

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.33	3.54	3.69	4.00	0.27
1.47	2.33	2.63	3.00	4.00	0.51
2.25	3.20	3.43	3.65	4.00	0.37
1.50	2.98	3.33	3.71	4.00	0.57
2.00	3.20	3.39	3.60	4.00	0.35
2.00	3.27	3.43	3.67	4.00	0.33
2.00	3.27	3.43	3.63	4.00	0.32
2.33	3.15	3.33	3.55	4.00	0.35
2.00	3.25	3.36	3.60	4.00	0.34
2.00	3.21	3.50	3.67	4.00	0.36

## 【 前 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 756
- 回答率 22.6%

## 【 総 評 】

回答率に関しては依然低く低いままだと授業へのフィードバックが行いにくい。複数の教員からのコメントにあるように、今後上げていく必要が強くある。全体として、小テストなど学生との間とにやり取りを行っている科目、すなわち、アクティブラーニングの要素を加えている科目は満足度が高い傾向にある。なお、回答の全体の傾向性は昨年度と同様である。

Q1 では 96.7%（昨年度前期 95.9%）が授業中には集中しているという回答であると解釈される。Q3 で授業時間外に取り組むべき課題が 88.2%の割合で示されているにも関わらず、Q2 で 39.2%が学生が授業前後に学習に割く時間をかけていないことである。勉強しなくてはいけないと思っても、なかなか進んでいないのが実情であると考えられる。一層の学習意欲の向上は教員・大学も悩んでいるところであるが、授業におけるさらなる工夫（上にあるような小テストの導入など）が必要であると考えられる。Q4:「この授業では能動的学修機会がある」であるが、26.6%の者がそのような機会がないと答えているが、理系科目によっては知識を習得しなくてはならないなど、科目の要請から能動的機会がないのも致し方がないものと考えられる。

Q8:「この授業の内容に関してさらに学びたい」であるが、生物資源科学部は化学・生物受験の学生が多いが、数学・物理学・統計学などの背景知識が必要となるため1年生で科目が配置されているが、なかなか学生の最終的な興味の対象ではないため、学びたくない学生が15.1%いるのは致し方ないとも考えられる。しかしながら、前述したような工夫がさらに必要である。さらに、これらの科目については、入学時点での学生達の能力の差には大きな隔たりがあり、Q5「この授業の課題の内容・量は適切である。」（そう思わない、全くそう思わないが計9.1%）では、能力別クラスを編成しない限りは、解決が難しいものと考えられる。なお、Q5については、多いのか少ないのか分ける質問にした方が授業へのフィードバックを行いやすい。

Q5～Q10については、科目によって偏りはあるもののおおむね授業の教材・支援についてはおおよそできているものと考えられる。

令和05年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 生物資源科学部  
 ■科目名 生物資源科学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 3,342  
 ■回答者数 756  
 ■回答率 22.6%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	347 45.9%	384 50.8%	23 3.0%	2 0.3%	3.42
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	165 21.8%	296 39.2%	274 36.2%	21 2.8%	2.80
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	292 38.6%	375 49.6%	75 9.9%	14 1.9%	3.25
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	249 32.9%	306 40.5%	167 22.1%	34 4.5%	3.02
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	282 37.3%	405 53.6%	53 7.0%	16 2.1%	3.26
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	284 37.6%	418 55.3%	43 5.7%	11 1.5%	3.29
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	289 38.2%	405 53.6%	51 6.7%	11 1.5%	3.29
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	265 35.1%	377 49.9%	98 13.0%	16 2.1%	3.18
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	288 38.1%	413 54.6%	43 5.7%	12 1.6%	3.29
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	291 38.5%	386 51.1%	68 9.0%	11 1.5%	3.27

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.67	3.30	3.50	3.61	4.00	0.29
2.00	2.57	2.80	3.00	3.71	0.34
2.25	3.06	3.29	3.50	4.00	0.37
2.00	2.88	3.03	3.49	4.00	0.48
2.50	3.10	3.26	3.50	4.00	0.33
2.75	3.19	3.33	3.50	4.00	0.25
2.50	3.10	3.33	3.46	4.00	0.26
2.50	3.00	3.25	3.40	4.00	0.28
2.50	3.18	3.33	3.47	4.00	0.30
2.25	3.10	3.33	3.50	4.00	0.32

## 【 後 期 】

- 授業科目の概要 生物資源科学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 549
- 回答率 17.0%

## 【 総 評 】

回答率が低いままで、上昇していない。そのため、統計的な特徴を述べるには有意であるとは思えず、主に授業評価アンケートへの教員コメント引用しながら、総評を行う。

回答率に関しては、「授業時間内に回答時間を設けたが 54.2%しか回答がなかった。」といった授業があり、アンケート回答を得るために、教員が苦勞している様子がうかがえる。このような状況が継続しており、学生の主体性に赤信号が付き続けている。また、学生の主体性と強く関係するが、授業外での学習時間が短いとのアンケート結果から「学生の授業外学習を促せるような工夫」が必要ではある。しかしながら、学生によっては授業負担を強く感じている者もいて、すべての科目で授業外学習時間をしっかり求めるのも難しく、バランスをもって、授業外学習時間を促すことも重要であると考えられる。

なお、全般にお話しを聞いたり（知識的な授業）、実学的・体験的な授業の満足度が高く、論理的に積み上げて理解する授業については、理解度が低いと考えられる。メカニズムを理解させる科目では「引き続き学びを続けたい」と思わない学生もいた」とのコメントもあり、その反映であると考えられる。論理的に理解する授業を避けている様子がうかがえる。これは、入学生の学力が低下していることと関係しているものと考えられる。論理理解力を身に付けていないと、将来応用が利かないので、深刻な事態である。論理理解力は一筋縄では身につかないが、入学時の学力が低下している以上、大学1年の段階で、数理的な論理構想能力（数学）や理系基礎力（物理学、化学、生物学）を少しでも習得すること（これらの基礎科目関連の授業時間を大きく増やすこと）が極めて重要であると考えられる。



■学部・学科 生物資源科学部  
 ■科目名 生物資源科学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 3,231  
 ■回答者数 549  
 ■回答率 17.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	218 39.7%	310 56.5%	18 3.3%	3 0.5%	3.35
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	76 13.8%	216 39.3%	223 40.6%	34 6.2%	2.61
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	213 38.8%	289 52.6%	39 7.1%	8 1.5%	3.29
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	163 29.7%	274 49.9%	91 16.6%	21 3.8%	3.05
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	167 30.4%	345 62.8%	29 5.3%	8 1.5%	3.22
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	167 30.4%	356 64.8%	24 4.4%	2 0.4%	3.25
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	185 33.7%	329 59.9%	28 5.1%	7 1.3%	3.26
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	145 26.4%	355 64.7%	43 7.8%	6 1.1%	3.16
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	171 31.1%	350 63.8%	24 4.4%	4 0.7%	3.25
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	173 31.5%	343 62.5%	30 5.5%	3 0.5%	3.25

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.50	3.25	3.40	3.58	4.00	0.29
1.00	2.50	2.60	2.86	4.00	0.43
2.35	3.18	3.33	3.50	4.00	0.32
2.00	2.75	3.17	3.57	4.00	0.51
2.83	3.13	3.21	3.35	4.00	0.27
2.71	3.14	3.28	3.41	4.00	0.30
2.64	3.14	3.29	3.43	4.00	0.29
2.43	3.06	3.23	3.36	4.00	0.31
2.57	3.17	3.29	3.44	4.00	0.28
2.43	3.13	3.30	3.43	4.00	0.30

## 【 前 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 2,394
- 回答率 32.5%

## 【 総 評 】

学生のアンケート回答率は32.5%で、昨年度（令和4年度）前期の35.4%と比較するとほぼ同様であったが、昨年度（令和4年度）後期の17.1%より上昇した。回答期間を延長したこと、対面授業の再開によりアンケートへの回答を直接アナウンスできたこと、授業の最後にアンケート回答の時間を設けたこと等が影響したと考えられる。ただし、未だ3割程度の学生しか回答しておらず、回答率向上に向けたさらなる工夫や努力が必要と考える。

学生の回答内容は昨年度（令和4年度）前期とほぼ同様の結果であったが、10項目中8項目でわずかに上昇がみられた。設問別に見てみると、Q5「課題の内容と量」3.27→3.40、Q6「目標とする力」3.32→3.47、Q7「教材の適切さ」3.30→3.45など、授業のパフォーマンスを示す項目にポイントの上昇がみられた。これらは対面授業の再開により、グループワークや実技実習の機会が増加したことが影響したと予測される。さらに、学生のパフォーマンスの向上は、Q8「さらに学びたい」3.29→3.42、Q10「全体的な満足」3.32→3.48など、学生の意欲や満足度の上昇に繋がったと考える。

一方で、Q2「授業外学修」2.89→2.76、Q4「能動的学修」3.34→3.33の2項目で、わずかではあるがポイントが低下した。学生は対面授業に出席したことに満足し、自主学修にかかる時間とエネルギーを低下させた可能性がある。また、Q2「授業外学修」のポイントが低いことは、本学部全体の長年の課題でもある。教員のコメントの中に、対面授業とオンラインによる補助教材を組み合わせることで学修効果や学生の満足度が高まったといった意見がみられた。対面とオンライン、それぞれの利点を活かした授業等、学生の能動的な学修を促すためのさらなる工夫が必要と考える。

令和05年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 保健福祉学部  
 ■科目名 保健福祉学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 7,375  
 ■回答者数 2,394  
 ■回答率 32.5%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,367 57.1%	983 41.1%	37 1.5%	7 0.3%	3.55
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	538 22.5%	884 36.9%	833 34.8%	139 5.8%	2.76
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	1,174 49.0%	1,079 45.1%	120 5.0%	21 0.9%	3.42
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	1,142 47.7%	953 39.8%	253 10.6%	46 1.9%	3.33
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	1,060 44.3%	1,235 51.6%	87 3.6%	12 0.5%	3.40
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	1,197 50.0%	1,141 47.7%	47 2.0%	9 0.4%	3.47
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	1,153 48.2%	1,182 49.4%	48 2.0%	11 0.5%	3.45
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	1,093 45.7%	1,219 50.9%	66 2.8%	16 0.7%	3.42
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	1,087 45.4%	1,228 51.3%	72 3.0%	7 0.3%	3.42
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	1,220 51.0%	1,122 46.9%	43 1.8%	9 0.4%	3.48

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)	平均の範囲(当該学部・学科科目)					
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
Q1	2.80	3.40	3.57	3.73	4.00	0.27
Q2	1.00	2.49	2.86	3.13	3.83	0.51
Q3	2.00	3.13	3.43	3.65	4.00	0.37
Q4	1.67	3.07	3.50	3.72	4.00	0.45
Q5	2.00	3.25	3.44	3.57	4.00	0.30
Q6	2.00	3.33	3.48	3.63	4.00	0.26
Q7	1.67	3.33	3.44	3.57	4.00	0.31
Q8	2.60	3.28	3.41	3.64	4.00	0.29
Q9	2.00	3.24	3.41	3.56	4.00	0.29
Q10	2.33	3.33	3.48	3.65	4.00	0.26

## 【 後 期 】

- 授業科目の概要 保健福祉学部専門科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,901
- 回答率 25.9%

## 【 総 評 】

学生のアンケート回答率は 25.9%であり、昨年度（令和 4 年度）後期の 22.7%と比較すると若干上昇した。しかし、今年度（令和 5 年度）前期の 32.5%よりは低下しており、前期よりも後期の回答率が低下する傾向がある。回答期間を延長し、授業の最後にアンケート回答の時間を設けるといった工夫をしたにも関わらず、回答率の向上がみられていない。

学生の回答内容を今年度（令和 5 年度）前期と比較すると Q4「能動的学修」に 0.1 点（3.33→3.23）の低下がみられた。その他の項目の項目も含めて、授業に対する学生の評価は前期に比べて全体的に低下傾向がみられたが、Q2「授業外学修」以外の全ての項目の平均値は 3.23 点以上であった。

今年度より本格的に対面授業が再開されるなか、学生は授業に出席したことに満足し、授業への能動的参加や自主学修にかかる時間とエネルギーを低下させた可能性がある。教員のコメントでは、授業の中にグループワークを取り入れる、学生と積極的に対話するなど、学生の能動的参加を促す工夫が試みられてはいるが、その効果は得られていない。

授業評価アンケートの目的は、学生の意見を元に授業改善に取り組むことであり、より多くの学生から意見を聴くことが重要である。アンケートの回答率を上げるためのさらなる工夫が必要だと考える。さらに、R5 年度はオンライン授業から対面授業への移行の時期であり、授業内容や方法について教員も学生も手探りの状態が続いている。オンラインと対面の両方の利点を組み合わせる等、効果的な学修を促すためのさらなる工夫が必要である。

■学部・学科 保健福祉学部  
 ■科目名 保健福祉学部全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 7,346  
 ■回答者数 1,901  
 ■回答率 25.9%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	974 51.2%	896 47.1%	27 1.4%	4 0.2%	3.49
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	361 19.0%	655 34.5%	811 42.7%	74 3.9%	2.69
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	850 44.7%	924 48.6%	112 5.9%	15 0.8%	3.37
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	828 43.6%	755 39.7%	253 13.3%	65 3.4%	3.23
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	790 41.6%	1,047 55.1%	50 2.6%	14 0.7%	3.37
Q6 この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	854 44.9%	1,001 52.7%	36 1.9%	10 0.5%	3.42
Q7 この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	805 42.3%	1,029 54.1%	52 2.7%	15 0.8%	3.38
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	764 40.2%	1,074 56.5%	53 2.8%	10 0.5%	3.36
Q9 この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	766 40.3%	1,070 56.3%	51 2.7%	14 0.7%	3.36
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	815 42.9%	1,031 54.2%	40 2.1%	15 0.8%	3.39

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.00	3.36	3.55	3.80	4.00	0.33
1.00	2.50	2.85	3.25	4.00	0.59
1.00	3.19	3.44	3.65	4.00	0.41
1.58	3.00	3.50	3.70	4.00	0.49
1.00	3.17	3.36	3.56	4.00	0.38
2.00	3.20	3.46	3.63	4.00	0.34
2.00	3.20	3.40	3.52	4.00	0.33
1.00	3.20	3.40	3.60	4.00	0.37
1.92	3.20	3.40	3.52	4.00	0.34
1.00	3.20	3.43	3.60	4.00	0.39

---

## 全学共通教育科目

---

### 【前期】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 3,178
- 回答率 39.0%

### 【総評】

授業外学修の時間を問う Q2 を除き、設問に対し「強くそう思う」または「そう思う」と答えた学生はおよそ 9 割に達しており、全般的に肯定的な回答を得たものと評価できる。授業時間外に取り組むべき課題が適切に示されている一方で、授業外学修の時間が長く取れていないという実状は、課題の内容および分量について再考の余地のあることを示唆している。

ただし、今回の回答率は 39.0%であった。前年度の回答率が前期で 37.3%、後期では 21.4%であったことに照らせば、どうにか 4 割の回答を得たとも言えるわけだが、これに満足せず引き続き回答率向上を目指すことが求められている。あわせて、教員からのコメントを増やすための方策を講ずることも肝要と考える。

以下、科目担当主任からの総括コメントを掲げる。

### 【学びスキル・リテラシー（外国語-英語）】

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を機に、コロナ禍前のような対面授業への回帰がさらに進展した。昨年度前期は各教員のコメントを踏まえ「対面授業の実施」「Teams や Zoom の活用」「グループワーク・ペアワークが復活したこと」が受講者から好評価を得たと考えられる、と考察したが、コロナ禍を経てもそのような状況へと回帰するなかでそれらのことはもはや当たり前となった。今年度前期の各教員のコメントからは、教材・教科書の選定が受講者の興味関心とマッチした場合に授業の効果が高まり評価も好ましくなる傾向が窺えた。当たり前のことではあるが、実現はなかなか難しい。重要な知見が得られた。

昨年度前期は「現在の方法となつてからアンケートの回答率が低くなった」と指摘したが、期限を延長したり、何度もリマインドしたり、授業時間に回答することを原則化するなどのことにより、(教員がコメントをした授業に関しては)ほとんどの授業で回答率が大幅に上がった。コロナ禍前に紙ベースで行っていたところと同様に授業時間に回答するのがよいということがわかった。

次に、改善が必要なことについて考察する。昨年度は「対面授業では発言が促進されるという側面がある一方、中には、発言を促してもなかなか発言しない学生もいる」ということを挙げ、「このことが示唆するのは、対面がよい、オンラインがよい、と一義的に決定することの難しさである」と考察した。このことは、変化がなく、問題点・困難点として継続しているようである。

各教員のコメントからは、適宜指名して応答を得るタイプの教員もいれば、自発的な発言を根気強く待つタイプの教員もいることがわかった。教員の方針と、受講者のタイプとの兼ね合いが問題となる可能性がある。よって、うまくマッチするか、しないか、マッチさせるためにはどのような工夫を教員側あるいは受講者側がすべきか、ということを検討すべきかも知れない。

最後に、今回も全教員からコメントを得ることができなかった。改善につなげていくため、より多くの教員からコメントを得ていくことが望まれる。

### 【学びスキル・リテラシー（外国語-英語以外）】

学びスキル・リテラシー(英語以外の外国語)では、韓国語とアカデミック日本語について教員コメントがあった。いずれの科目も、受講生のレベルに合わせて授業内容や教材を工夫する対応が見られた。外国語科目についてはレベルに合った授業を展開することで、i+1で言語力の伸びにつながることを期待される。そのためには受講生のレベルの見極めとニーズの把握が今後の課題となるだろう。

### 【学際知（社会系）】

3 キャンパス合同のオンライン授業であるために、オンラインの不具合や聞き取りづらさなどの技術的な問題が一番大きな課題となっている。オンラインでのグループワークは、学生それぞれのネット環境や積極性などにも大きく左右され、対面よりもやりづらさを感じる場合がある。そこで、対面でのグループワークを実施するため、担当教員が週ごとに各キャンパスを回って、ハイフレックス授業を実施しているケースもあった。学生は各キャンパスで受講する方式での授業の実施である。その場合にも、機材とネット関連のトラブルの発生が課題となっている。

### 【学際知（自然系）】

コメントのあった科目については学生のアンケート結果は良好であり、適切な授業が行われたと推察される。また、科目によってはグループワークを取り入れるなど授業形式についての工夫も見られた。今年度前期には G7 があったため、それにより一部の授業形式を変更せざるを得なかった科目もあったが、それによる学生からの不満は特になかったようである。但し、昨年度同様、アンケートの回答率がさほど高くないため、アンケートの回答を講義内で呼びかける必要があるといったコメントがあった（Q3よりそういった取り組みが行われており「入れ違い」ではあるが、前期の時点でそういった声があったことを示すべきかと考え、記した次第である）。

### 【地域課題】

まず、いくつかの科目について着目すると、「地域教養ゼミナール B（テーマ型）」では、進捗管理の困難性を Teams にて情報共有し、教員が助言することで改善するなど工夫がみられた。「ひろしま理解」では、3 キャンパスで受講生が 300 名を超えているが、担当教員 3 名で対応してお

り、今後の授業運営を考えると、どのような運営が適切なのかなど、検討事項がある点が見受けられた。また、「地域情報発信論」では、対面とオンラインを選択できる余地があってもよいかもしれないとのコメントがあった。そこは、今後検討する余地がある。

地域課題科目全体に着目すると、アンケート回答率が、30%に満たないものがほとんどであったため、各科目の評価を適切に判断できているのかが疑問に思われる。アンケートの回収率については、今後どのようにして回収率を上げることができるかを検討することが重要であるように思われる。

### 【キャリア開発（キャリア）】

ライフデザインは、3キャンパスの学生を対象とした集中講義であり、授業評価は高い。Zoomによるオンライン授業は、学生に好評といえる。今後の課題として、ブレイクアウトルームを用いたグループワークの際に、実質的な活動（意見交換など）ができていないグループに対する介入等の仕組みづくりの検討がある。

キャリアビジョンについては、庄原キャンパス、三原キャンパス、集中のいずれも「この授業に集中し、真剣に取り組んでいる」および「この授業に満足している」に対する回答が、強く思う、そう思う、に集中しており、受講した学生は積極的に学んだように見受けられる。

### 【入門演習】

以前からも指摘があったことだが、入門演習はどの科目も3キャンパスにまたがるものであるためオンラインで行わざるを得ない。昨年度まではこの点について学生アンケートからの具体的なコメントがあったわけではなかったが、今年度については（「不満」とまでは言えないだろうが）「デメリットを感じた」というコメントがあった（但し、該当学生は授業自体には満足していたようである）。また、これも以前からあったことだが、いくらかのやりにくさを感じる担当教員も存在するようである。問題克服に向けて教員なりに前向きに取り組んでいるようではあるが、教科によっては、学部（キャンパス）ごとに必要とする内容が異なるケースもあることと合わせ、「入門演習」の形態について全学的に議論する必要があるかもしれない。



令和05年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 全学共通教育科目  
 ■科目名 全学共通教育科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 8,156  
 ■回答者数 3,178  
 ■回答率 39.0%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	1,714 53.9%	1,406 44.2%	53 1.7%	5 0.2%	3.52
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	419 13.2%	1,086 34.2%	1,353 42.6%	320 10.1%	2.50
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	1,488 46.8%	1,364 42.9%	263 8.3%	63 2.0%	3.35
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	1,418 44.6%	1,251 39.4%	420 13.2%	89 2.8%	3.26
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	1,322 41.6%	1,659 52.2%	159 5.0%	38 1.2%	3.34
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につ く。	1,400 44.1%	1,649 51.9%	109 3.4%	20 0.6%	3.39
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプ リ・ファイルなど)は適切だ。	1,390 43.7%	1,624 51.1%	138 4.3%	26 0.8%	3.38
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	1,050 33.0%	1,762 55.4%	309 9.7%	57 1.8%	3.20
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	1,260 39.6%	1,737 54.7%	152 4.8%	29 0.9%	3.33
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	1,384 43.5%	1,624 51.1%	137 4.3%	33 1.0%	3.37

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)	平均の範囲(当該学部・学科科目)					
	最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
Q1	2.00	3.36	3.53	3.70	4.00	0.28
Q2	1.00	2.25	2.56	2.83	4.00	0.47
Q3	2.00	3.20	3.45	3.67	4.00	0.38
Q4	1.50	2.96	3.42	3.72	4.00	0.50
Q5	2.00	3.18	3.38	3.56	4.00	0.32
Q6	2.50	3.27	3.43	3.57	4.00	0.28
Q7	2.50	3.25	3.43	3.57	4.00	0.27
Q8	1.00	3.08	3.25	3.47	4.00	0.37
Q9	2.00	3.20	3.36	3.55	4.00	0.29
Q10	2.00	3.24	3.45	3.60	4.00	0.32

---

## 全学共通教育科目

---

### 【後期】

- 授業科目の概要 全学共通教育科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 1,836
- 回答率 27.7%

### 【総評】

学生からの回答をいかに増やすかということは全学的な課題となっている。今期も、若干の改善が見られたものの回答率は3割に届かなかった。

今年度前期において、アンケートの回収・取りまとめの方法・コメントの収集など、制度全体について見直すことを課題として掲げたが、いよいよ本腰を入れて取り組む必要を感じている。管見では、アンケートの実施・コメントの入力という業務が教員の多忙な日常の中で重点を置かれているものとは、にわかには考え難い。特に後者に関しては、その依頼が大量に送られてくるメールの中に埋もれてしまっている現状がある。アンケートに係る諸問題は、わたしたちのしごと全般の問題と重ね合わせて考えられるべきなのであろう。

以下、科目担当主任からの総括コメントを掲げる。

### 【外国語（英語）】

コメントだけを読んで、どのような授業が行われたか詳細に把握するのは困難であるが、グループワークやプレゼンテーションといった、コロナ禍の間には行われていなかった活動を復活させた授業が多くなり、学生の満足度が高まった可能性があることが窺えた。

2年次後期に開講される選択科目の受講者が少ないという傾向が定着してきたが、少人数であることにより、教材研究や受講者の学習支援を充実させることが可能となっているようである。よって、受講者が少ないことを問題視しなくてよい可能性がある。重要なのは授業の満足度向上のための努力を続けていくことだと言える。

担当教員コメントから窺える課題はこれまでと同じで、「さらに学びたくなる」の項目で「強くそう思う」と回答する受講者が少ないことである。「目標とする力が身につく」の項目で「強くそう思う」と回答する受講者が少ないというコメントも見受けられた。学生の求めるものを取り入れさえすれば素晴らしい授業となるのかどうかはよくわからないが、学生が大学の英語授業に求めているものは何か、調査してみたい。

### 【学際知（人文系）】

パンデミックは一応終わった。それにしても、国内外問わず、「黒」を「白」と言い、「白」を

「黒」と言う嘘，そして腐敗に満ちた4年間に見えた。主流メディアは依然，2021年以降の世界的超過死亡をまともに報じない（日本の様子は末尾参照）。人文学の本格的訓練を受けた人なら，一次資料にあたり，批判的，多角的，論理的考察によって，この騒動のおかしさに気づけただろう—その意味で「役に立たないは役に立つ」を実感させられた4年間でもあった。おまけに「世の中にはマネーゲームに長けた人がいる」とも……。Cf. Kennedy, Robert F. Jr. 2021. *The Real Anthony Fauci*, p. 401 – “In September 2019, less than a month before COVID began circulating, the Gates Foundation made a \$55 million pre-IPO equity investment in BioNTech.” さてこの度も，昨年度同様，1科目から同一教員による3報告があったのみである。1人で200名以上の履修者に対応している様子を伝えている（具体はそちらをご覧ください）。再編を機に，「学際知（人文系）」は，目下「心理学」を唯一の例外として，「1教員で3キャンパス担当」が初期設定になってしまった。しかし，本当にそれでよいのだろうか。教育効果上，問題はないか。序でながら，本学の場合，一人二役，三役の働きをしたところで，それが適正に評価されるわけでもない（研究費などへの反映は実質ない）。

主要課題は，教育改善よりも「設定」や「設計」の方にあるように思われる。適切な教員配置（教員補充），TA配置，クラスサイズ，授業アンケートの設問（Q4）自体の適否，等々，挙げれば多々あるだろう。が，やはり「時間」にまつわることが最優先課題ではないか。

というのも，学内某調査の結果が由々しき状況を伝えているように見えるからである（詳細は学内者用 wiki「学内研究支援制度」の6「研究活動状況実態アンケート調査結果」にある）。端的に言うと，研究エフォートが，国内の全大学平均を下回るように見えるのである。

ちなみに，世界の大学を見ると，個人的な調べによれば，教員のエフォートは「研究」「教育」「その他」の割合が，40%，40%，20%ぐらいが標準である（本学コンプライアンス研修に登場する「仮想事例」では，週50時間の仕事時間中，30時間が「研究」に充てられ，研究エフォートは60%である）。鷲田氏は言う，「研究4，教育4，行政1，地域1では困る」「せめて，教育サービスの質を落とさずに，研究6，教育3，行政・地域1の割合が必要だ」（鷲田小彌太『こんな大学教授はいりません』2012, pp. 178-179）。言うまでもなく大学は，学校教育法，新教育基本法からも，研究機能を持つことが法的前提である（cf. 館昭『原理原則を踏まえた大学改革を』2013, p. 31）。「THE 日本大学ランキング」の指標で大きなウェイトを占める「教育リソース」の内訳も，結局「教員一人あたりの論文数」等々であり，大学の「教育力」は，「研究力」に大きく依存する（「学生一人あたりの教員比率」等もあるが，本学は公立である時点で優等だろう）。よろず，物事の軽重がつけられない人が増えているのではないか。各所で，本質を見誤らない見識，人文学的教養が問われている気がしてならない。

最後に厚労省資料を付す。（死亡数グラフに注目。赤が当該年。青が前年。過去5年分）

- (i) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2019/dl/201912.pdf>
- (ii) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2020/dl/202012.pdf>
- (iii) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2021/dl/202112.pdf>
- (iv) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2022/dl/202212.pdf>

(v) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/s2023/dl/202312.pdf>

### 【学際知（社会系）】

遠隔授業やオンライン授業の方式は、3 キャンパス一斉に授業を実施することを可能にする、優れたシステムである。その一方で、教員と学生のコミュニケーションが一部制限される面もある。その点を補うために、教員がキャンパスを移動して遠隔授業を実施するなど創意工夫している様子がうかがえた。また、Teams や Forms を使って小テストや課題を毎回出して、受講生の参加意欲や理解度の確認をしていた。教員はさまざまなツールを使って学生が学びやすくなるよう工夫している。しかし、遠隔やオンライン実施授業において、受講している学生すべての学習意欲を高めたり、習熟度を確認したりすることはなかなか難しい。受講生自身が、意欲をもって受講できるような授業のしくみを検討する必要がある。

### 【地域課題】

まず、いくつかの科目について着目すると、「地域教養ゼミナール A(エリア型)」では、フィールドワークおよび代替調査は概ね好評であったというコメント内容であった。また、「地域教養ゼミナール B(テーマ型)」では、授業進行も丁寧で、こちら側が理解できるよう、外部講師を積極的に取り入れているので、よく理解できたとのコメント内容であった。

そして、地域課題科目全体に着目すると、アンケート回答率が、30%に満たないものばかりであったため、各科目の評価を適切に判断できているのか疑問である。アンケートの回収率については、今後どのようにして回収率を上げることができるかを検討することが重要であるように思われる。

### 【キャリア開発】

キャリアビジョン（デベロップメント）（Q3）は、能動的な学習機会が十分にあり、時間の課題についても明確にしめされており、学生は積極的に取り組んでいるものと見受けられる。ただし、グループワーク主体の科目において、少数ながら参画意識の低い学生がいるようである。次年度以降、受講カードの活用やグループへの介入による改善を期待する。

### 【ダイバーシティ】

ダイバーシティ領域の科目に関しては、担当教員から寄せられたコメントはきわめて少なかった。しかし、わずかな資料から浮かび上がってきたものは、3 キャンパス合同・完全オンラインという厳しい状況のもとで、学生とやり取りを重ね、その声を引き出し、学びの果実を大きくするために奮闘している教員の姿であった。具体的に掲げられた今後の課題を解決することで、さらなる「よい授業」が展開されることが期待されている。

■学部・学科 全学共通教育科目  
 ■科目名 全学共通教育科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 6,632  
 ■回答者数 1,836  
 ■回答率 27.7%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	962 52.4%	830 45.2%	42 2.3%	2 0.1%	3.50
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	196 10.7%	564 30.7%	909 49.5%	167 9.1%	2.43
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	878 47.8%	811 44.2%	122 6.6%	25 1.4%	3.38
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	984 53.6%	698 38.0%	116 6.3%	38 2.1%	3.43
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	846 46.1%	895 48.7%	76 4.1%	19 1.0%	3.40
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	857 46.7%	917 49.9%	45 2.5%	17 0.9%	3.42
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	873 47.5%	890 48.5%	57 3.1%	16 0.9%	3.43
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	695 37.9%	1,011 55.1%	101 5.5%	29 1.6%	3.29
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	822 44.8%	936 51.0%	63 3.4%	15 0.8%	3.40
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	884 48.1%	885 48.2%	46 2.5%	21 1.1%	3.43

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
2.50	3.33	3.50	3.67	4.00	0.29
1.50	2.16	2.48	2.80	4.00	0.51
2.50	3.13	3.44	3.67	4.00	0.34
2.00	3.13	3.50	3.73	4.00	0.44
2.00	3.21	3.43	3.60	4.00	0.36
2.33	3.32	3.48	3.58	4.00	0.31
2.33	3.25	3.48	3.61	4.00	0.32
2.15	3.07	3.33	3.50	4.00	0.35
2.33	3.25	3.43	3.57	4.00	0.32
2.15	3.30	3.46	3.67	4.00	0.33

---

## 教職課程

---

### 【 前 期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 114
- 回答率 23.6%

### 【 総 評 】

授業評価アンケートの集計結果に関しては、前年までの評価と大きく変わりはなく、相対的に高い評価を示していると考えられる。Q2の授業外学習の時間については、他の項目に比べると低い評価値となっていることもこれまでと同じ傾向である。回答数、回答率の数値を見ると、低いままで、高い評価をしている学生が積極的にアンケートに回答した可能性もあるが、大きな変革を求められる状況とは考えにくい。

また、教員コメントからも、アンケート結果を踏まえた対応が散見され、適切に対応していることがうかがえる。

令和05年度前期 授業評価アンケート集計結果

県立広島大学

■学部・学科 教職課程科目  
 ■科目名 教職課程科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 484  
 ■回答者数 114  
 ■回答率 23.6%

■設問別評価集計

アンケート設問内容	強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
	評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1 わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	76 66.7%	37 32.5%	1 0.9%	0 0.0%	3.66
Q2 わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修 (課題,準備,復習等)時間。(1週間の平均)	23 20.2%	44 38.6%	41 36.0%	6 5.3%	2.74
Q3 この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示され ている。	61 53.5%	42 36.8%	8 7.0%	3 2.6%	3.41
Q4 この授業では能動的学修機会がある。	72 63.2%	30 26.3%	8 7.0%	4 3.5%	3.49
Q5 この授業の課題の内容・量は適切である。	68 59.6%	39 34.2%	4 3.5%	3 2.6%	3.51
Q6 この授業の目標とする力(知識や技能など)が身につく。	69 60.5%	42 36.8%	3 2.6%	0 0.0%	3.58
Q7 この授業の教材(教科書・資料など)・教具(アプリ・ ファイルなど)は適切だ。	70 61.4%	39 34.2%	5 4.4%	0 0.0%	3.57
Q8 この授業の内容に関してさらに学びたい。	67 58.8%	41 36.0%	6 5.3%	0 0.0%	3.54
Q9 この授業での学修活動(発言や提出物など)に対して 必要な支援を得ている。	65 57.0%	43 37.7%	4 3.5%	2 1.8%	3.50
Q10 総合的に判断して、この授業に満足している。	70 61.4%	39 34.2%	4 3.5%	1 0.9%	3.56

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲(当該学部・学科科目)					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.43	3.73	4.00	4.00	0.35
2.00	2.53	3.00	3.13	4.00	0.51
1.00	3.00	3.55	3.80	4.00	0.67
1.00	3.00	3.60	4.00	4.00	0.67
2.00	3.00	3.52	3.80	4.00	0.58
2.00	3.23	3.50	3.83	4.00	0.47
2.00	3.04	3.63	3.95	4.00	0.49
2.00	3.27	3.58	3.95	4.00	0.48
1.00	3.06	3.48	3.79	4.00	0.65
1.50	3.00	3.64	3.83	4.00	0.56

---

## 教職課程

---

### 【 後 期 】

- 授業科目の概要 教職課程科目
- 授業科目の名称 担当教員コメント欄参照
- 回答数 79
- 回答率 17.8%

### 【 総 評 】

令和4年度後期の結果、令和5年度前期の結果と比較してみると、いずれの時期との対比においてもアンケート結果の評価値は高くなっており、順調な進捗状況であることがうかがえる。また、科目ごとの教員コメントを見ると、結果を踏まえて次年度に反映させようとする姿勢がみられ、健全な傾向にあると思われる。ただし、回答率は17.8%と低い値で、令和5年度前期と比較しても約6ポイント減少しており、回答率に関する改善が望まれる。



■学部・学科 教職課程科目  
 ■科目名 教職課程科目全体  
 ■担当者名

■受講登録者数 445  
 ■回答者数 79  
 ■回答率 17.8%

■設問別評価集計

アンケート設問内容		強く そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	当該 科目区分 平均値
		評価4	評価3	評価2	評価1	
Q1	わたしはこの授業に集中し、真剣に取り組んだ。	60 75.9%	19 24.1%	0 0.0%	0 0.0%	3.76
Q2	わたしがこの授業に関連して行っている授業外学修（課題,準備,復習等）時間。（1週間の平均）	18 22.8%	27 34.2%	30 38.0%	4 5.1%	2.75
Q3	この授業では授業時間外に取り組むべき課題が示されている。	56 70.9%	21 26.6%	2 2.5%	0 0.0%	3.68
Q4	この授業では能動的学修機会がある。	57 72.2%	19 24.1%	2 2.5%	1 1.3%	3.67
Q5	この授業の課題の内容・量は適切である。	56 70.9%	23 29.1%	0 0.0%	0 0.0%	3.71
Q6	この授業の目標とする力（知識や技能など）が身につく。	56 70.9%	22 27.8%	1 1.3%	0 0.0%	3.70
Q7	この授業の教材（教科書・資料など）・教具（アプリ・ファイルなど）は適切だ。	57 72.2%	21 26.6%	1 1.3%	0 0.0%	3.71
Q8	この授業の内容に関してさらに学びたい。	53 67.1%	23 29.1%	2 2.5%	1 1.3%	3.62
Q9	この授業での学修活動（発言や提出物など）に対して必要な支援を得ている。	57 72.2%	21 26.6%	1 1.3%	0 0.0%	3.71
Q10	総合的に判断して、この授業に満足している。	58 73.4%	21 26.6%	0 0.0%	0 0.0%	3.73

■設問別科目平均の範囲と中央値

平均の範囲（当該学部・学科科目）					
最小値	25%点	中央値	75%点	最大値	標準偏差
3.00	3.64	3.80	4.00	4.00	0.31
1.67	2.00	3.00	3.00	4.00	0.68
3.00	3.50	3.75	4.00	4.00	0.28
3.00	3.50	3.82	4.00	4.00	0.35
3.00	3.50	3.78	4.00	4.00	0.34
3.00	3.50	3.67	4.00	4.00	0.33
3.00	3.50	3.78	4.00	4.00	0.35
2.00	3.50	3.67	4.00	4.00	0.47
2.00	3.50	3.73	4.00	4.00	0.46
3.00	3.50	3.78	4.00	4.00	0.30